

平成26年度

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館 企画展

染織探訪

— 大城志津子が追求した染織の美 —

2014
10/30(木) ~ 11/5(水)

開館時間 10:00~17:00
※11月3日のみ20:00まで開館

開催場所

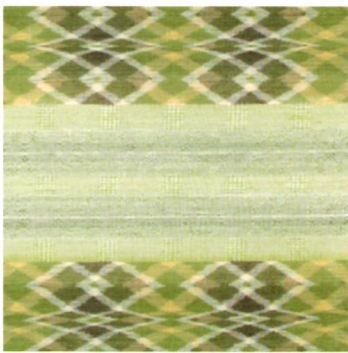
沖縄県立芸術大学附属図書・
芸術資料館2階 第1展示室

「絹ウールゲーシ花織飾り布」

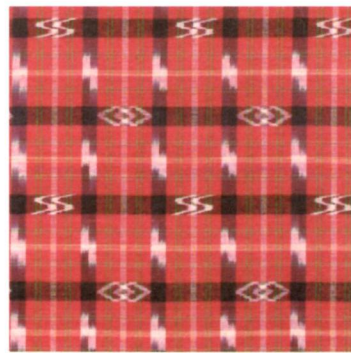
入場無料



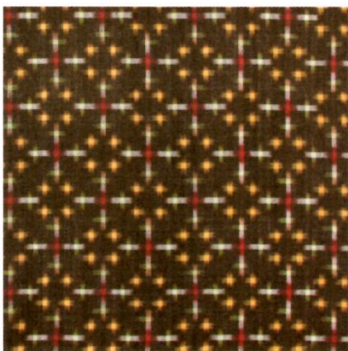
大城志津子（工房にて）



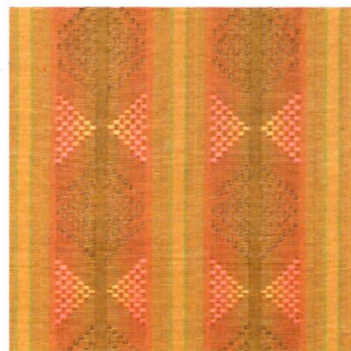
「絹緑地経緯緋に両面浮花織着尺裂地」



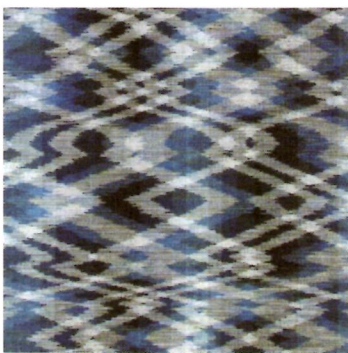
「絹赤地手縞着尺裂地」



「絹茶地総緋着尺裂地」



「絹黄地グーシ花織帯裂地」



「絹紺地緯緋帯裂地」

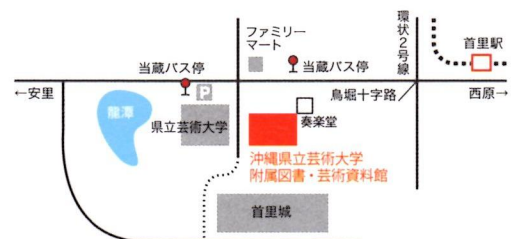


「絹緑地緯緋に手花織帯裂地」

沖縄は、琉球王国時代から地理的位置や歴史背景、気候条件により、各地で特色ある織物が織り成されてきました。第二次大戦で壊滅的な被害を受けましたが、戦後、多くの人の尽力により再興しました。大城志津子(1931~1989)も伝統織物の復興に功績を残した一人です。

大城は、1931(昭和6)年に那覇で生まれました。琉球大学を中退したのち、女子美術大学で洋画を学びました。卒業後、帰郷して美術教師をしていましたが、再び上京し、柳悦孝の元で本格的に染織を学びました。1964(昭和39)年に帰郷し、那覇市首里儀保町に工房を開設しました。国展や沖展に出品するなど、精力的な作家活動を行うとともに、戦争を免れた資料を調査し、県内各地や海外で染織の調査を行いました。琉球大学の教授を経て、1986(昭和61)年に本学教授に就任し、今後の活躍を期待されていましたが、1989(平成元)年他界しました。

当資料館には、大城が学生のために遺した資料が収蔵されています。今回の展覧会では、それら資料を中心に紹介します。



路線バス 当蔵バス停下車徒歩1分

モノレール 首里駅下車・徒歩10分

来館者用駐車場がございませんので、バス、タクシー、モノレールをご利用下さい。

[お問い合わせ]

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館
〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4
TEL: 098-882-5038/FAX: 098-882-5068
<http://www.lib.okigei.ac.jp/lib.html>